「50年の歴史から学ぶ」をはじめるにあたって

弘前大学名誉教授
今　　充

おはようございます．ただ今の佐々木会長の開会挨拶に引き続き，本学会最初の講演を始めさせていただきます．

ご周知のように本学会は昭和34年8月(1959年)，当時の弘前大学教授槇哲夫先生会長の元に仙台において開催されたのを嚆矢とします．スライドで説明させていただきますが，殆どは白鳥先生が司会をなさったフォーラム「日本平滑筋の歩み」のなかにあるスライドで，図1は槇先生の若かりし頃のお姿で，第13回総会の時の様子です．槇先生の隣におられますのが，会長をされました大内先生でございます．

図2は第2回平滑筋筋電図研究会の時の集合写真です．当時はまだ平滑筋学会にはなっていない頃で，本日の御講演をされる先生で，参加しておられた方もみられます．図3は第13回総会のときの様子で，大内先生が主催され十和田で開催された時のものです．当時は，図にありますように教室のスライド係がスライド映写をしておりまして，扇風機で冷をとり畳の上で，皆さん胡座をかいておおらかに，しかし熱心にやったわけです．本日は，こうした懐かしい話が諸先生方の講演の中に出てくるものと思います．

期せずして第50回という記念すべき本学会がこの弘前の地で開催できました．そのめぐり合わせに深く思いを馳せているものであります．佐々木会長も50回という歴史の重みを噛み締め，平滑筋研究50年―過去と未来の接点―というテーマのもと，50年の歴史から学ぶ，というこの記念講演を，しかも学会初日の口火を切る演題として企画されたことに，本学会への熱き思いを感じている次第であります．本学会の歩みは必ずしも平坦なものではなく，いろいろな難問が山積しましたが，歴代理事長，事務局，役員，そして学会員の一貫した研究発表に対する情熱が本学会の発展を支えてきました．本学会の2分の1世紀にわたる成果は弘前大学小野慶一教授によりこの地，弘前で開催された第27

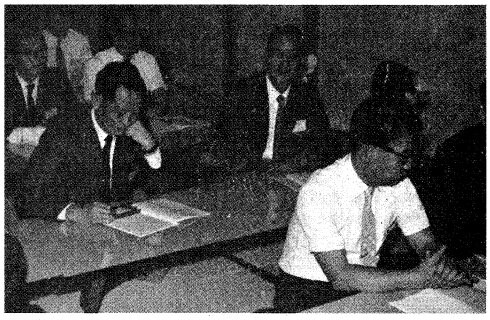

図1.　第13回日本平滑筋学会総会風景．槇，大内先生

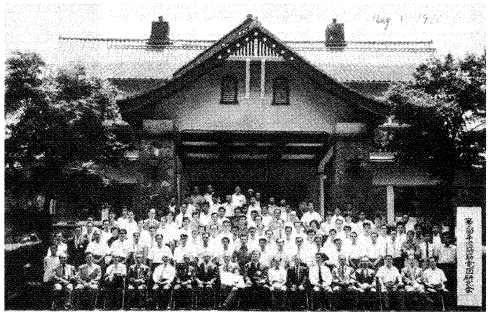

図2.　第2回平滑筋筋電図研究会（軽井沢晴山ホテル）

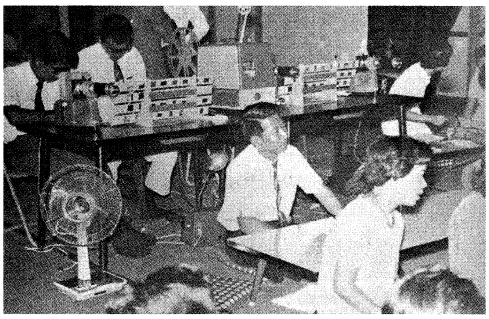

図3.　第13回日本平滑筋学会総会におけるスライド映写風景．

図4.　第27回日本平滑筋学会総会，フォーラムにおける鈴木泰三・白鳥常男先生.

図5.　第27回日本平滑筋学会総会，フォーラム「日本における平滑筋研究の歩み」．富田忠雄・福原武，田北周平，槇哲夫先生.

図6.　第50回日本平滑筋学会総会，「50年の歴史から学ぶ」座長の今充・唐木英明先生.

図7.　第50回日本平滑筋学会総会会長，佐々木大輔先生.

図8.　第50回日本平滑筋学会総会，「50年の歴史に学ぶ」演者，（右より）伊藤漸・砂野哲・富田忠雄・田中隆・岡本英三・白鳥常男，各先生.

回総会のフォーラム「日本平滑筋の歩み」において論じられ，昭和60年の日本平滑筋学雑誌第21巻（1985年）に記載されております．幸いなことに，そのフォーラムの司会を担当された白鳥先生や蒼々たる若き研究者のお一人としての演者でありました富田忠雄先生にも，本日はご参加いただきました．図4には，その時の白鳥先生のお姿も見られますが，残念ながら，雑誌の編集を必死に担当されました鈴木泰三先生はすでに亡くなられました．また，演者でありました富田先生も図5に載っております．

さらに，各演者皆様が学会長経験者であり，学会創始に関係深く，平滑筋の研究を通して大きく医学・医療の発展に貢献をされた方々ばかりであります．佐々木会長の目指された次の平滑筋研究臨床へのステップアップ，の図られたものとなることを確信しております．なお，本講演の全内容は，日本平滑筋学会雑誌に掲載する予定になっております．司会は，唐木先生と小生が担当させていただきます．前半は主に基礎関係の演者で，後半は臨床関係の先生方です．それでは，唐木先生にバトンをタッチしたいと思います．

東京大学名誉教授
唐　木　英　明

司会を担当させていただきます唐木です．私は，定年退職後は内閣府で働かせていただいておりまして，内閣総理大臣の命令で6月から9月まではネクタイをするなということでございますので，ノーネクタイで失礼をいたします．

今日は，いまご紹介のように，6人の先輩の先生方のお話を聞く会ですので，私は何も申し上げません．演者のご紹介に徹しさせていただきます．それでは，最初のお話は伊藤先生に「私の研究の回顧と提言」ということでございますが，一言だけ申し上げますと，伊藤先生はモチリンを発見された世界的に有名な先生でございまして，そのお話も聞かせていただけるのではないかと思います．よろしくお願いします．

講演を終わるにあたって

弘前大学名誉教授
今　　充

各演者の方々より，こころ熱く，深くて重みのある有意義なお話を伺うことが出来ました．必ずや，あすからの本学会の発展を担う次世代の学究のみなさんに，学会長の目指した未来のロードマップを描くのに大きな参考になったものと思います．

貴重なご講演を賜わった先生方，御静聴くださった皆様に感謝し，次の1/4世紀での記念講演も一層盛大であることを祈念して会を閉じたいと思います．有難うございました．